

グリーンニュース 第26号

発行年月日 平成17年 12月 16日
発行責任者 群馬県環境アドバイザー連絡協議会
代表 鈴木 克彬

環境アドバイザー重点行動テーマ

行動する環境アドバイザー

・・・研修・情報交換の場を広く・・・

活 動 報 告

- (1) 6月22日(水)平成17年度第1回幹事会開催 昭和庁舎26会議室
- (2) 6月26日(日)京都大学21世紀COE(Center Of Excellence)第46回市民講座開催 県庁2F ビジターセンター
「環境に優しいエネルギーとその利用」
太陽光発電の未来 京都大学教授 吉川 氏
これからの自動車、くるま社会 同上 塩路 昌宏氏
ゴミの発生抑制とその仕組みづくり 連絡協議会代表 鈴木 克彬氏
- (3) 7月9日(土)環境講演会開催 県庁2F ビジターセンター
「実物に接することの大切さ」 ぐんま昆虫の森園長 矢島 稔氏
- (4) 7月9日(土)平成17年度連絡協議会総会開催 県庁2F ビジターセンター
- (5) 7月12日(火)～20日(水)日本におけるドイツ年記念事業「ドイツフェスティバルin ぐんま」開催
- (6) 8月4日(木)第1回役員会開催 県庁161会議室
- (7) 8月11日(木)第2回幹事会開催 昭和庁舎21会議室
- (8) 10月2日(日)第7回ぐんま環境&森林フェスティバル開催 県庁前広場
- (9) 11月1日(火)視察見学会開催
視察場所 ぐんま昆虫の森、サンデンフォレスト、新里産業廃棄物安定型モデル最終処分場
- (10) 11月3日(木)午前温暖化エネルギー部会、午後ゴミ部会開催 昭和庁舎35会議室
- (11) 11月6日(日)午前自然環境部会、午後広報部会開催 昭和庁舎35会議室

～ 関 連 事 項 ～

- (1) 3月30日(水)NPO法人「地球温暖化防止ぐんま県民会議」が「群馬県地球温暖化防止活動センター」に指定される
- (2) 5月25日(水)NPO法人「地球温暖化防止ぐんま県民会議」定時総会開催 昭和庁舎35会議室
- (3) 5月25日(水)「群馬県地球温暖化防止活動推進センター」開所式行われる
前橋市城東パーキング1F センター事務所
- (4) 10月22日(土)地球温暖化防止第1回セミナー開催 県庁2F ビジターセンター
「家庭における温暖化防止対策」 高経大非常勤講師 片亀 光氏
- (5) 11月15日(土)地球温暖化セミナー開催 県庁2F ビジターセンター
「CO₂吸収としての森林の役割と緑のダム」
(財)林業土木コンサルタンツ森林環境研究室長 金子 祐次郎氏
- (6) 11月28日(月)地球環境講演会開催 公社総合ビル大ホール
「異常気象と今後の暮らし」国際連合大学 副学長 安井 至氏

環境アドバイザー視察研修会報告

11月1日(火)環境アドバイザー37名及び環境政策課員2名による県内環境関連施設の視察研修会が行われました。以下概要を報告します。

1 ぐんま昆虫の森

施設概要：桐生市新里町不二山(標高285.6m)地域48haの里山。桑畑ゾーン 雑木林ゾーン 水田ゾーン 富士山沼ゾーンおよび昆虫観察館からなる自然観察園で平成8年より整備計画を策定、本年8月1日(月)に全面オープンした。昆虫1406種、鳥類84種、植物616種を育む自然豊かな地域。

県職員の岩崎係長及び金杉専門員の案内で広い園内のうち西側に位置する桑畑ゾーン、富士山沼ゾーン、昆虫観察館を見学した。

本園は自然とそこに生息するさまざまな生き物に直接触れあうことで、人間が忘れていた「真の豊かさ」や「生きることの意味」を実体験し、自然との共生が如何に素晴らしく大切なことかを再認識する場を里山という形で多くの人々に提供したいという基本的な考え方に基いて構想されたものです。

当日園内で小学生が水辺や草原で嬉々として虫達と遊ぶ姿に、こうした施設が有効に生かされていることを見て、今後この施設の持つ意味が益々増すであろうと感じた。

2 サンデンフォレスト

施設概要：前橋市粕川町中ノ沢7番地に位置(標高400~480m)し、64.2haの広大な敷地は半分を緑地、残り半分を工場用地としている。生産品は冷凍冷蔵ショウケース、自動販売機、住宅環境器機、カーエアコン用コンプレッサー、電子機器等である。

堀越顧問をはじめ青木事業所長、室田総務部長らのお迎えを受け、まず本事業所の建設に当たったの概要をビデオで見た後構内を案内していただいた。本事業所建設の基本的な考え方は「自然環境との共存」であり、緑豊かな自然の中で「創造、挑戦、貢献」の企業理念を実現することで、これを実践するに当たってオーナーである牛久保会長の自然環境に対する高い見識と強いリーダーシップがあった。

即ち建設に当たってC.Wニコルス氏、福留氏(西日本科学研究所長)の指導を仰ぎ、造成工事についても近自然工法の採用等、いたるところに自然環境に対する細かい配慮とこだわりがみられた。

これからの企業はこうであるべきであり、それにより地域住民をはじめ県民からも喜ばれることになる。真に企業のあるべき姿を具現化した点でサンデンという企業に対し改めて拍手を送りたい。

なお自販機に見られるように省エネ、ノンフロン等製品についても高い公共性の追求への努力も見られた。今後こうした考え方が全国に広がればと思う。

3 新里地区産業廃棄物安定型モデル最終処分場

施設概要：桐生市新里町関地域の県有林10.16ha内にあり、そのうち3.94haが最終処分場として使われている。

埋立容量：333,000立方_ト(うち廃棄物埋め立て容量264,000立方_ト)

埋立期間：平成14年2月1日より8年間(最長10年)

埋立対象廃棄物：瓦礫類 ガラス、コンクリート及び陶器類 廃プラスチック類 ゴムくず 金属くずの安定5品目

施設運営：地元関係地区代表、事業者、桐生市、県からなる「新里地区産業廃棄物安定型モデル処分場運営連絡協議会」による。

工場庭園の様相を深める管理されたサンデンフォレストの見学後ということもあり、当産業廃棄物処理場のゴミの散乱状況を見た時、その格差に見学者の多くは言葉を失った。それは、各種のゴミが廃棄され、ポリ袋の散乱する姿であった。

しかし、これが現社会の産業廃棄物処理場の実態で、更にこの処理場の管理状況は上位ランクとのこと。改めて廃棄物処理行政の難しさを再確認する見学会であった。

(文責 新井 靖衛)

部 会 報 告

11月3日(木)、6日(日)の午前午後を亘り(1)温暖化エネルギー部会(2)ゴミ部会(3)自然環境部会(4)広報部会の4部会が開催されました。

新年度最初の部会ということで鈴木代表の司会の下、出席者は自己紹介と活動への抱負等述べ、その後今後の部の方向性につき意見交換をし、最後に部の役員を選出を行いました。

以下概要を報告します。

1) 温暖化エネルギー部会

開催日時及び場所 11月3日(木) 10:00~12:00 昭和庁舎35会議室

出席者数 23名(登録者数 65名)

(1) 発言概要

最近の異常気象への危惧、省エネの必要性、各自治体の環境基本計画等への関与、排ガス抑制、電気自動車等の採用、小学校レベルでの環境教育の必要性、代替エネルギーへの切り替え、中学生の意見の採用、大学への環境カリキュラムの導入、バイオマスエネルギーの採用、環境紙芝居や環境ゲームによる啓蒙

発言者の中にはかつて職場で培われた専門知識の豊富な方も多く、今後の活動が期待されます。

(2) 方向性について

- ・ 温暖化防止活動推進センターと同じ様なことをする必要はない。
- ・ 各ブロックの活動報告の場にすべきである。
- ・ 見学会等を多くしてはどうか。
- ・ 每部会ではテーマを絞って討議してはどうか。

(3) 役員選出(敬称略)

部会長 小川 仁司 副部会長 久保田 文三 書記 奈賀 由香子

顧問 山口 牧夫 下城 茂夫 吉川 聡

なお、平成18年1月28日(土)午前エコ住宅見学 午後討議を計画しています。



2) ゴミ部会

開催日時及び場所 11月3日(木) 13:30~15:30 昭和庁舎35会議室

出席者数 22名(登録者数 61名)

(1) 発言概要

ゴミ対策は温暖化対策の一つ、分別回収の徹底で資源化と減量、調査を通じて問題点の洗い出し、安中市で実施しているエコスポットの普及、県としての分別回収のスタンダードの確立、環境教育の徹底、小学校の協力による“ごみ減量化作戦”、地域環境学習の充実、生ゴミの堆肥化、「エコロジーはエコノミー」、ゴミかわら版の周知徹底、環境優良企業の表彰、「自分のライフスタイルを追及したらエコロジーがあった」「エコロジーを考える私が好き」

(2) 方向性について

- ・ 行政側と住民との協力関係を果たすべきである。
- ・ 講習会、見学会等の開催後討議の場を設けるべきである。
- ・ 調査を定期的実施し実態を把握すべきである。
- ・ 合併前後の行政の対応についてアンケートをとったらどうか。

(3) 役員選出(敬称略)

部会長 新井 靖衛 副部会長 吉澤 敏則 書記 斉藤 直枝 藤生 早苗

3) 自然環境部会

開催日時及び場所 11月6日(日)

出席者数 9名(登録者数 69名)

(1) 発言概要

街路樹等の公共植栽に対する住民のエゴ、外来種による生態系の変化、ビオトープの普及、河川改修による自然破壊、森林における経済と環境保全の問題、農業環境と自然環境保全の両立、「環境を守ることが人間を守ること」「利便性の追求が自然を破壊している」

(2) 方向性について

- ・ 自然観察会(例えば尾瀬ヶ原ウォッチング)を実施。(平成18年7月頃を予定)
- ・ 部会は事例発表や地域相互の意見交換の場にすべきである。
- ・ 子供たちとの交流も必要である。例えば水辺の学校等。

(3) 役員選出(敬称略)

部会長 飯塚 紘一 副部会長 宗 義彦 佐藤 康弘 書記 畔見 和佳

4) 広報部会

開催日時 11月6日(日) 13:30~15:30 昭和庁舎 11 会議室

出席者数 7名(登録者数 18名)

(1) 発言概要

情報手段としてのホームページの活用による情報収集と情報発信、ホームページによるコミュニケーションシステムの構築

(2) 方向性について

- ・ 環境アドバイザー連絡協議会独自のホームページを立ち上げる。
- ・ 広報部としてグリーンニュースも担当する。
- ・ メディア(新聞、テレビ、ラジオ等)の活用。
- ・ セミナー等の主催。
- ・ ホームページのニックネームとシンボルマークの募集。
- ・ 会員相互の交流会の主催。
- ・ 情報交換を通じて他団体との交流を図る。

(3) 役員選出(敬称略)

部会長 野村 武彦(セミナー、交流会担当) 副部会長 西村 豊(ホームページ担当) 北村 聡(グリーンニュース担当) 書記 坂谷 美保、清水 孝頼

(文責 新井 靖衛)

群馬環境・森林フェスティバル報告



「買い物は、マイバッグを持っていきましょう!」「牛乳パックやトレーは回収ボックスに返しましょう!」「捨てればゴミ、分ければ資源」「限りある資源、もったいないの心で大切に利用しよう」と言いながら、「環境フェスティバル、終わってみればゴミの山」・・・

ゴミを出さない、「ゴミゼロ」のフェスティバルにしたいと昨年、県の職員とアドバイザーの有志が集まり、使い捨てをやめて再使用しようと「お皿洗いたい」が作られました。

「お皿洗いたい」のメンバーはアドバイザーとボランティアで食器を返却して

もらうためにデポジットを取り入れて、ディッシュ、リユース・システム(DRS)を考案しました。

お皿代まで払うのはイヤ!食器を返しに行くのが面倒くさい等々、苦情が出るのでは、と心配でしたが、「ご苦労様、とてもいいことですね」「ゴミが無くていいね」と大変好評でした。使い捨て食器をやめたただけなのに、フェスティバルの終わった会場には、ゴミはありませんでした。



これからもイベントの都度、この回収システムが利用され「ゴミゼロ」のお祭りになったらいいと思います。

(文責 茂木 由美)

ご苦労さまでした♪♪



バイオマス まちづくり 欧州環境視察見学報告から -
～CPD(建築士会継続能力開発制度)認定講座～ 2005/02/05
講師 菊川 熙英 氏

群馬建築士会前橋支部女性部の2月定例会を前橋市福祉会館視聴覚室にて、まちづくり班担当で行いました。環境視察研修は、環境先進国といわれる欧州三カ国(ドイツ、デンマーク、スウェーデン)の事例を学ぼうと実施され、自己負担で参加されました。

欧州三カ国は、風力発電、木質バイオマス発電など自然エネルギーの普及が進んでいます。

環境視察した時のパソコンに豊富に収められた写真を見せていただきながらお話をうかがいました。

ベクショー(スウェーデン)は、「脱化石燃料宣言」を世界で初めて行った都市である。石油燃料の火力発電所から転換した木質バイオマス発電所があり、木くずや間伐材のチップを燃料として発電し、地域暖房に利用されている。灰は、森に戻して肥料にしているのので、まちと森の資源の循環ができています。

フランクフルト(ドイツ)のマンハイムの木質バイオマス発電所は、工場団地にあり、解体工事や建築現場から出る廃材の木をチップにして燃料とし、熱と電気を直接工場に供給している。可燃ごみの焼却施設もあり、灰は、道路工事用の資材に使い、発電所から廃棄物が出ないようにしている。

風力発電設備容量では、一位ドイツ、二位スペイン、三位アメリカ、四位デンマークである。また、デンマークでは、全世界の50%以上の風力発電機を生産し、主要な輸出品になっている。おもしろいのは、個人所有が58%、グループ所有が23%、日本のような電力会社の所有は、18%である。風力発電は、コストは高くなるが、国は、発電所の所有者が損をしないシステムをつくり、普及するよう努めている。

パークアンドライドなどのシステムで公共交通も便利に利用しやすくなっていて、自転車道の整備も進んでいる。前橋にもあったらいいと思う。公園も多く、もちろん緑も多く、アカシアの花が6月にはきれいに咲き、ピオトープ、クラインガルテン、屋上緑化、どの花が一番長持ちするかなどの研究も進められている。その他、エコ住宅、ソーラー発電の実験もされている。

地球にやさしい再生可能エネルギー源の利用拡大、その規模の大きさ、携わる人々の関心の高さに感心させられ、その結果がCO2削減に直結していると菊川氏は言われました。

質疑応答では「宇宙船地球号」の「新月の夜に木を切ると丈夫で長持ちする。」といった話にまで及びました。先進国といわれる所以がよくわかり、おどろき以上にうらやましく感じます。気候風土の違いはありますが、この地に取り入れてほしい事例ばかりでした。

まちづくり班、一緒にいかがでしょうか。よろしく願い致します。

(文責 西村 良子)

カブトムシにおそわったこと
カブトムシがおしえてくれる ～朝倉小学校ピオトープ見学会～ 2005/07/10
鈴木 正知 講師



生物と共存無しには人間生活はあり得ない。学校ピオトープを通して多くの生き物(カブトムシを例に取る)の生活があってこそ人間生活があることを再確認出来た。自然が作るピオトープは人間にとって必ずしも評価されない現実と人間が良しと思うピオトープは生物にとっては決して棲みやすくないことを理解できた。

実際に子供たちが授業の中で取り組んでいる学校ピオトープの活用の仕方を見るべきだと思う。子供たちは真剣に生き物との共生を希望している。われわれ大人たちの自然観を再確認できる場を作っていく必要がある。

～鈴木正知 講師 談～

(文責 西村 良子)



生命の地球・地球の生命

—地球の温暖化防止のために—

群馬県地球温暖化防止活動推進センター
特定非営利活動法人・地球温暖化防止ぐんま県民会議の活動

私たちは数十年、生きてきて、最近の気象、気候はどこかおかしいと感じませんか。夏の猛暑、世界的にも大型のハリケーン、集中豪雨。どうもそれら異常気象が地球の温暖化によるものらしい。そして、その温室効果ガスの内、二酸化炭素の占める割合が大きく、二酸化炭素発生の主要な原因が化石燃料にあるらしいといったことが、ほぼ私たちの常識化しつつあります。仮に、このまま地球温暖化を私たち人間が放置するとすれば、平均15といわれている地球の平均気温が、今世紀中には、最大5.8くらい上昇、生態系の乱れはおろか、多くの種の絶滅が始まるという警告が世界の科学者や信頼できる機構から発せられています。

この地球温暖化の加速を防止するため、1997年12月に京都で開かれた「気候変動枠組条約・第3回締約国会議」、いわゆる「京都議定書」において、先進国から排出される温室効果ガスを、1990年対比で2012年までに、世界中で-5.2%削減する事が決められ、日本としては-6%削減の義務を負うことになりました。今年2月16日、いよいよこの議定書が発効となったわけですが、日本の-6%は生易しいものではありません。現に、2004年、推定では-6%どころか、国内では+15%という数値が出ています。しかしここで、難しいからといって、匙を投げてしまうわけにはいきません。私たち世代にとっては通り過ぎていってしまうことかもしれませんが、孫子の代には取り返しのつかない事態になるかもしれない。生命の地球、地球上の生命に関わる一大事、最大のテーマであることに間違いはありません。

そこで、日本としては、平成10年には、この京都議定書を実効あらしめるため、「改正・地球温暖化対策推進法」を定め、法律第24条に基づき、全国すべての都道府県に各一カ所、県知事指定の「地球温暖化防止活動推進センター」を設置、さらに知事委嘱の「地球温暖化防止推進員」を配置することが決められました。



このセンター指定は特定の法人格を要するため、群馬としては、昨年来、法人取得のための準備会を重ね、本年3月初め「特定非営利活動法人・地球温暖化防止ぐんま県民会議」(新井榮一理事長)の認証、法人登記を完了、3月30日付けで、群馬県知事より「群馬県地球温暖化防止活動推進センター」の指定を受け、県内における温暖化防止を官、民一体となって展開する運びとなりました。

法人結成、センター指定という形が整い、いよいよ活動の場、拠点づくりということで、県や前橋市の協力、支援も受け、法人理事の努力により、前橋市内広瀬川沿いの前橋城東パーキング1階ホールに、防止センター広報室を開設、事務機能を備え、法人の正会員として登録頂いた多くの環境アドバイザー有志の方々に支えられ、5月25日、今年度の総会・理事会を経て、センターの開所式にこぎつけることが出来ました。

3月から5月までの整備期間を経て、とりあえず6月から、18名の法人理事、監事がボランティアとして、事務局、運動局を組織、手分けして、月・水・金の午前中、センターに勤務、開設後の体制づくりに取り組んできました。幸いに9月中旬から、パートながら専従の事務局員を1名採用し、業務処理を行えるようになり、毎週、月～金、午前10時から15時までの間、オープン出来る様になりました。

また、9月28日付で、102名の「群馬県地球温暖化防止推進員」を知事が委嘱し、センターを拠点として、県内各市町村、産業、運輸関係の場で、具体的活動を進めてもらえることになり、これで、場と人の二枚看板が揃ったことになり、あとは、活動財源の充実という課題を残すのみとなり、今後の三本柱の確立が期待されるところです。

センターの主な業務としては、地球温暖化防止の関する

- ・普及啓発のセミナーを開設すること
- ・推進員の研修を行うこと
- ・民間団体の活動を支援すること
- ・県民からの照会、相談に応ずること
- ・有用な資料や情報を提供すること

等となっています。



既に、3回にわたる温暖化防止のセミナー(環境省支援事業)を企画、開催、今後更に県内各地で研修会、講演会、出前講座、県民エコDOの推進などが取り組まれる予定です。

その他、推進員の方、市町村役場、学校、企業からの問い合わせや一般の来所者も多くなり、日常的な事務処理も増えてきています。平日10時～15時の間は職員のほか、理事も交代で常駐しておりますので、環境アドバイザーの皆様にも、気軽に「環境アドバイザーの 〇〇です。」と声をかけ、お寄り頂ければと思います。一同お待ちしております。

(文責 特定非営利活動法人 地球温暖化防止ぐんま県民会議 副理事長 城田博巳)



群馬県地球温暖化防止活動推進センター
 〒371-0016 前橋市城東町2-3-8
 TEL,FAX 027-237-1103
 Mail ccca-gunma@odn.wind.ne.jp
 URL <http://www15.wind.ne.jp/ccca-gunma/>



平成17年度環境アドバイザー登録状況について

平成17年度の環境アドバイザーの登録者は、334名になりました。(平成17年11月10日現在)

現在、皆さんと一緒に活動する仲間を増やすため、上毛新聞「ゆうまちゃんの掲示板」を利用して、随時募集しています。今後もどんどん増やしていきたいと思っておりますので、ご家族・ご友人・ご近所の方で環境問題に関心のある方がいらっしゃいましたら、是非お誘いください。

市町村登録状況(平成17年11月10日現在)

地域	市町村名	登録者数	地域	市町村名	登録者数	地域	市町村名	登録者数
前橋	前橋市	65	藤岡	藤岡市	9	利根	沼田市	7
	富士見村	4		新町	1		片品村	0
渋川	渋川市	3		鬼石町	2		川場村	2
	北橋村	0		吉井町	3		みなかみ町	1
	赤城村	0		上野村	0		昭和村	2
	子持村	0		神流町	0		太田	太田市
	小野上村	0	富岡	富岡市	10	桐生	桐生市	19
	伊香保町	0		妙義町	0		(勢)東村	0
	榛東村	3		下仁田町	0		笠懸町	4
	吉岡町	2		南牧村	2		大間々町	5
伊勢崎	伊勢崎市	34	甘楽町	2	館林	館林市	14	
	玉村町	4	中之条町	1		板倉町	8	
高崎	高崎市	39	(吾)東村	0		明和町	0	
	安中市	16	吾妻町	5		千代田町	3	
	榛名町	3	長野原町	0		大泉町	9	
	倉渕村	1	嬭恋村	1		邑楽町	2	
	箕郷町	3	草津町	1		合計	334	
	群馬町	7	六合村	1				
	松井田町	10	高山村	0				

地区名	登録番号	氏名	住所	備考欄
前橋	H1701002	西村 良子	前橋市大手町	書記
	H1701003	新井 榮一	前橋市青柳町	
	H1701005	城田 博巳	前橋市大友町	副代表
	H1701010	宗 義彦	前橋市青柳町	
	H1701013	小川 仁司	前橋市天川大島町	
	H1701015	高橋 義雄	前橋市青柳町	
	H1701020	菊川 照英	前橋市天川大島町	
	H1701031	鈴木 浩子	前橋市下石倉町	
	H1701032	鈴木 克彬	勢多郡富士見村	代表
	H1701039	福田 稔子	前橋市中内町	
	H1701040	宮田 光子	前橋市大前田	
	H1701050	宮田 莊二	前橋市粕川町	書記
渋川	H1702001	高田 由美子	渋川市辰巳町	
伊勢崎	H1703004	増茂 満	伊勢崎市東小保方町	
	H1703005	千葉 弘孝	伊勢崎市間野谷町	
	H1703009	鈴木 孝尚	伊勢崎市八坂町	
	H1703020	吉江 富雄	伊勢崎市今井町	書記
	H1703025	堀地 和子	伊勢崎市下植木町	
	H1703026	下城 茂夫	伊勢崎市下植木町	
	H1703030	片亀 光	佐波郡玉村町	
	H1703035	金井 拓美	伊勢崎市境島村	書記
高崎	H1704003	新井 靖衛	高崎市井野町	代表書記
	H1704006	杉本 清司	高崎市石原町	
	H1704007	奈賀 由香子	高崎市江木町	
	H1704012	野村 武彦	高崎市菊地町	副代表
	H1704016	青木 純郎	高崎市貝沢町	
	H1704035	安田 金藏	群馬郡箕郷町	
	H1704036	畔見 和佳	群馬郡群馬町	書記
	H1704040	小宮 ふみ子	安中市安中	
	H1704043	大野 茂	安中市高別当	書記
	H1704046	山口 牧夫	安中市築瀬	
	H1704055	磯貝 享子	碓氷郡松井田町	
	H1704060	宮崎 薩道	高崎市弓町	
藤岡	H1705003	井口 邦子	藤岡市藤岡	
	H1705005	辰身 武昭	藤岡市立石	
富岡	H1706002	佐藤 恵子	富岡市内匠	
	H1706009	吉田 孝	富岡市下丹生	書記
吾妻	H1707004	片山 守利雄	吾妻郡吾妻町	
	H1707005	黒岩 武雄	吾妻郡吾妻町	
利根	H1708003	角田 和男	沼田市上原町	
	H1708009	岡野 行男	沼田市上川田町	
太田	H1709001	須藤 功	太田市菅塩町	
	H1709007	天笠 正義	太田市烏山下町	書記
	H1709012	斎藤 雅寿	太田市藪塚町	
	H1709019	飯塚 清苑	太田市新田上田中町	
	H1709021	小暮 典子	太田市只上町	
桐生	H1710003	彦部 雪夫	桐生市相生町	副代表
	H1710007	斉藤 直枝	桐生市相生町	
	H1710009	藤生 早苗	桐生市広沢町	
	H1710013	丸山 芳徳	山田郡大間々町	
	H1710021	伊藤 孝	新田郡笠懸町	

館 林	H1711001	相場 澄子	館林市岡野町	
	H1711003	荒井 孫四郎	館林市日向町	
	H1711006	宮田 昇一	邑楽郡板倉町	
	H1711017	久保田 伯一	邑楽郡大泉町	書記
	H1711033	松尾 隆	館林市大街道	

群馬県環境アドバイザー連絡協議会顧問・監査名簿

役職名	登録番号	氏名	住所	備考欄
顧 問	H1701003	新井 榮一	前橋市青柳町	
	H1704046	山口 牧夫	安中市築瀬	
	H1706003	飯井 哲子	富岡市富岡	
	H1708001	真下 淑恵	沼田市戸鹿野町	
監 査	H1703026	下城 茂夫	伊勢崎市下植木町	
	H1703030	片亀 光	佐波郡玉村町	
	H1704040	小宮 ふみ子	安中市安中	

平成17年度環境アドバイザー登録状況について

平成17年度の環境アドバイザーの登録者は、334名になりました。(平成17年11月10日現在)

今後も皆さんと一緒に活動する仲間を増やしたいと思いますので、ご家族・ご友人・ご近所の方で環境問題に関心のある方がおられましたら、是非お誘いください。

エコムーブ号出動中！

エコムーブ号を使った「動く環境教室」が、環境学習サポーターの皆さんのご協力により県内各地で行われています。10月末時点の実績は次のとおりです。

平成17年度の稼働状況

	4	5	6	7	8	9	10	計
稼働日数(日)	1	12	11	6	5	4	21	60
動く環境教室(件)	1	4	5	5	2	4	11	32